

正誤表

笠井俊文・藤原政雄 共編

「よくわかる診療画像機器学」

株式会社オーム社 2020 年 9 月 11 日 第 1 版第 1 刷用

頁	当該箇所	誤	正
6	8～9 行目	した直後は であるが、フィルタ（固有ろ過および付加ろ過）や被写体の厚さに依存して 程度に変化する。また、 $n=3\sim 5$ は通常 撮影距離と～	した直後は $n=2$ であるが、フィルタ（固有ろ過および付加ろ過）や被写体の厚さに依存して $n=3\sim 5$ 程度に変化する。また、 FID は通常 撮影距離と～
293	6 行目	[cm] / 153 [m/s] $\div 13.1\mu s$ である。人体～	[m] / 1,530 [m/s] $\div 13.1\mu s$ である。人体～
297	下から 4 行目の式	$\Delta x = n \cdot \lambda / C$	$\Delta x = n \cdot \lambda / \mathbf{2}$ (備考) 例えば、5 MHz の超音波（波長 λ 0.306 mm）, 波数 n 6 の時の距離分解能は $\Delta x = (6 \times 0.306) / 2 \div 0.92$ mm となり距離分解能は約 0.9 mm です。
298	下から 4 行目の式	(誤りではなく補足説明)	例えば、5 MHz の超音波（波長 λ 0.306 mm）, 振動子の大きさ D 20 mm の円形振動子, 深さ x 10 cm とすると $\Delta y = (1.22 \times 0.306 / 20) \times 100 \div 1.87$ mm となり方位分解能は, 約 1.9 mm です。